

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第二十五話

「新冠のトパットミ伝承について」(要約文)

アイヌ文化において、「トパットミ」と呼ぶ不思議な伝承が各地に残されています。トパットミとはアイヌ語で「群盗、夜盗、夜襲」と訳されるもので、宝物の収奪や集落の襲撃をする話です。日高地方にも多く語られるもので、今回は新冠での伝承を一部紹介いたします。

○判官館の伝説

判官館の岩を昔のアイヌ達はポロヌプリ(大山又は親山)と呼んで、大事にして酒をあげたものである。ある時、どこからか攻めて来た敵が、この付近の人達をずいぶん殺した。生き残った僅かの人達が、ポロヌプリの神に祈りをささげてから、ガマで織ったムシロをひろげて岩の上から飛びおりたところ、鳥のようにふわりと飛べて、怪我もなく皆無事に逃れることができた。

○白鳥の子孫

タカイサラ(現在の高江付近)昔は市街地まで高江と呼んでいた)に昔大きな集落があったが、ある時、他国から攻め入った人のために、住んでいた人は皆殺しにされ、家は焼き払われて焼野原となってしまった。その中、たった一人の男の子だけ助かった。しかし、どのように生きていけばよいのか

わからず、ただ泣いてばかりだった。その時、どこからともなく一人の女の人が現れ、男の子を助けた。その男の子が成人した時、二人は夫婦になって沢山の子供をもうけたので、荒れ果てたタカイサラの集落は復活することができた。最初に男の子を助けた女の人は、天国に住む雌の白鳥で、目的が終わると再びもとの姿に戻り、沼の中の白鳥の大群へと帰って行った。

○厚別川の砦

厚別川の支流のホロカウナイ川の西に砦があるが、この場所は釧路から来た野盗(トパットミ)と戦争した所だと伝えられている。釧路アイヌのトンクスリは、ラメトク(豪傑)という老人に毒矢を射込まれ倒された。トンクスリを葬った場所は、かつての美宇小学校(現キリスト教会の研修交流施設)の所だ。

伝説や伝承は、事実であるか否かは気にかかるものですが、その地域に永く伝えられていたことはそれなりに意味があることで、その要因を探ることは歴史の一端に触れることにもなります。



野盗が葬られたという伝承がある
旧美宇小学校
現キリスト教会研修交流施設付近

～海・山・川 ルールを守って みな笑顔～

事故が無く楽しいレジャーを過ごしましょう。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区 分	火災件数	救急件数
6 月	0 件 (0 件)	23 件 (17 件)
2 年 1 ～ 6 月	0 件 (3 件)	119 件 (159 件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区 分	発生件数	死 者	傷 者
6 月	0 件 (0 件)	0 人 (0 人)	0 人 (0 人)
2 年 1 ～ 6 月	1 件 (3 件)	0 人 (0 人)	1 人 (3 人)

人の
うごき

(6 月末現在)

人 口 5,424 人 (前月比 - 18 人)
男 2,657 人 (前月比 - 9 人)
女 2,767 人 (前月比 - 9 人)
世 帯 2,758 世帯 (前月比 - 3 世帯)